

令和8年度真駒内桜山小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：26027

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	課題
<p>成果</p> <p>◇札幌市の共通指標の「疑問や課題を解決するために自分で方法を考えるようにしている。」「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。」「という項目に対して、8割以上の児童が肯定的に捉えている実態がある。</p>	<p>課題</p> <p>◇札幌市の共通指数標の「自分の意見を進んで発言しようとしている。」「自分で計画を立てて勉強している。」という項目に対しては、肯定的な回答をした児童が7割程度である。これらの結果から、本校の児童にとっては「進んで発言」「自分で決めたり計画を立てたりする」ことへのハードルが高いと考えられる。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇札幌市の共通指標「人のよいところを見付けようとしている」「人の役に立ててうれしいと感じる」という項目に対して、肯定的な回答をしている児童の割合が8割以上と、自分だけでなく他者も認め合っていると捉えることができる。互いのよさを認め合いながら他者と学ぶこと(他者承認)が得意な一方で、学ぶ力の課題にもあるように、自己肯定感の高まりには繋がっていないようだ。引き続き自己承認の感度を上げられるように、役割や場、価値付ける環境や関わりが重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分の考えをつなげられる力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 全教職員で作る、目指す子ども像・授業像 →目指す子ども像「<u>自分の考えを友達とつなげられる子ども</u>」 目指す授業像「<u>つながりが見える授業</u>」の実現</p> <p>(2) 全教職員での授業検討 義務教育学校開校に向けて、9年間を通した学ぶ力の育成、目指す子どもの姿を検討していく。</p>	<p>①よりよい学級・学年にするための<u>学級活動の充実</u> 「なりたい自分」「つくりたい集団」へ自らが成長していけるように、「自分が大切にされている」と実感できる指導と支援</p> <p>②委員会による全校集会・あいさつ活動・まこさく活動(異学年交流) <u>子どもと作る全校朝会(まこさくプログラム)・学習発表会</u> 互いにあこがれを抱き合える関わり合いの支援</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p>		
<p>◇「一人で学ぶ」「みんなで学び合う」よさを生かした授業構成と環境の整備(一人一台端末の効果的で系統的な利用)</p> <p>◇2年生以上で、家庭学習を取り入れ「自分で決める」経験と機会を保障。学習において子ども自身が計画を立て、必要性を判断して端末を利用する。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

